

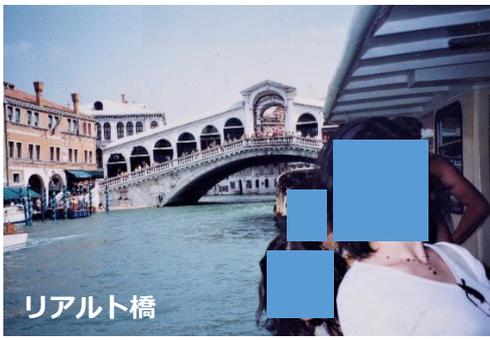


サン・マルコ広場 鐘楼より 中央はサンタ・マリア・デッラ・サルUTE聖堂、左奥がジユデッカ島レデントーレ教会

この6月からイタリアのベネチアが日帰り観光でも入場予約制になるとのことです。1987年に世界文化遺産に登録されていますが、登録基準6項目を全て満たしている数少ない中のひとつで、今年4月の復活祭休暇中は連日10万人超の観光客が訪れたという人気の観光地です。それを1日4~5万人に制限することになるようです。事前にインターネットで予約しなければならず、来年の1月からは3~10ユーロの入場料も必要になるとのことです。2000年に家族旅行で行ったときのアルバムを引っ張り出してきました。今回は、フィルムカメラ時代のプリントからスキャンした写真を紹介します。

ベネチアは多数の島と運河を渡る多数の橋、周辺も含めた人口が約26万人という「水の都」です。フン族やゲルマン族等の侵攻から逃れた人々が5世紀中頃から干潟に住み始めたようで、7世紀終盤にベネチア共和国が始まり、13世紀にはクレタ島やキプロス島まで勢力を広げています。東方見聞録のマルコポーロ(1254-1324)も、今はクロアチア領のコルチュラ島出身との説もあり、クロアチアには小ベネチアと思える街並みもありました。その後18世紀終盤のナポレオン侵攻で共和国は崩壊、オーストリア統治時代等を経て、19世紀の普墺戦争を機にイタリア王国に編入されたとのこと。

はるか沖合のリド島(長さ約12km、ベネチア国際映画祭開催地、映画「ベニスに死す」の舞台)等によってアドリア海と隔てられた、かなり大きなベネチア潟の中に「水の都」はあります。潟の中の沼地に多数の木杭(9本/m程とか)を打って石の基礎を乗せ、その上に建築物を建てていることは良く知られていますが、沈下して最下階は浸水して使っていないものも見受けられました。イタリア本土からは海上の鉄道橋でサンタルーチア駅か、平行した海上のリベルタ橋でローマ広場のバスターミナル(どちらも都市の北西端)まで入れますが、その先は運河橋を昇降りする階段や曲がり角だらけの細い迷路のような路地が続き、自転車や車は全く使えない都市です。徒歩か運河を利用するバス代わりの乗合船バボレット、水上タクシー、及びあのゴンドラが足となります。鉄道駅りからS字を裏返したような形の大運河があります。大運河には、駅のそばにスカルツィ橋、中心付近に最大のリアルト橋(長さ48m・幅22m、16世紀に木橋から現在のアーチ型石橋に架け替えられた)、そして木製のアカカデーミア橋があり、逆S字の最後の辺りにサン・マルコ広場があります。



リアルト橋



サン・マルコ寺院



ムーア人の時計塔

リアルト橋付近は、ゴンドラも多く、大運河を渡る橋は少ないので、夜でも人々で賑わっていました。サン・マルコ広場の鐘楼からは、周辺の街並みだけでなく、ベネチア潟のかなり遠方まで見渡せました（冒頭の写真）。北側にある時計塔（左写真）は、屋上のムーア人像が正午に鐘を鳴らす仕掛けで、正面にはベネチアのシンボル・羽を持つライオンと時計があります（左写真は改修工事中の足場のシートに描かれた絵です）。



サン・マルコ広場



ため息橋（南側 パリア橋より）



奥のパリア橋の向こうは海



上の左と中央は、ドゥカーレ宮殿の尋問室と牢獄を繋ぐ橋で、投獄される囚人が最後にベネチアの景色を見てため息をついたということで「ため息橋」と呼ばれているそうです。西側の白い建物がドゥカーレ宮殿、東側黒い建物が牢獄です。ゴンドラの漕ぎ手は、低い橋にかかるとうんと屈んでやり過ごします。右写真より半分以下のもっと幅の狭い運河もあります。

ベネチアの10月から3月は「アクアアルタ」と呼ばれる高潮のシーズンで、サンマルコ広場が冠水している画像が報道されることも珍しくありません。2003年から「モーゼ計画」というプロジェクト（海中に金属製の可動式防潮堤防高さ30m・幅20mを78基沈めて、高潮時に立て起こしてアドリア海から潟に入る海水を減らそうというもの）が進んでいます。この仕掛けを特集したTV番組を視た記憶もあります。管理や維持の費用の問題があるのか、最近になってもこの堤防が

うまく稼働せず、2019年には1.9m、2020年には1.5mの高潮もあり、逆に潮が引き過ぎてゴンドラが運航できないこともあったようです。観光入場有料化は、これらの維持管理にも少しはプラスになるのでしょうか。

右写真は、サンタルーチア駅とリアルト橋の中間の大運河岸にあるカ・ドーロ（黄金の館：元は外壁に金箔と多彩色の装飾があった）、15世紀の貴族の邸宅が博物館として公開されています。1階床レベルが水面ぎりぎりのようですが、沈下したものが新築当初から船着き場だったのかは不明です。

ベネチアというと、世界三大カーニバルのひとつと言われている2月頃の仮面カーニバルがあります。階級毎に服装だけでなくいろいろと制約があった12世紀に仮面を付けて行動の自由を楽しみ出したのが始まりで、18世紀末には仮面着用やカーニバル自体も禁止され、それが1979年に復活されたそうで、最近でも非日常感を満喫できる人気のカーニバルとのこと。カーニバルの時期ではなくても、土産物店にたくさんの仮面が並んでいました。

全く関係ないところですが、ハワイのダイヤモンドヘッドも5月12日から事前予約制（1名5ドルで、訪問12日前から受付）になったとのこと。世界中コロナ禍を経たことも影響しているのかも知れませんが、これから予約制で人数制限する観光地が増えるのでしょうか。



カ・ドーロ



ダイヤモンドヘッド（海上より）



頂上展望台（屋上に立つ人も）

（写真撮影 2000.08.26-27 ダイヤモンドヘッドは2015.03.23）

Google 地図参照

ベネチア	https://www.google.co.jp/maps/@45.4368933,12.3317757,14.02z
サンタルーチア駅	https://www.google.co.jp/maps/@45.4414284,12.3201783,16.45z
スカルツィ橋	https://www.google.co.jp/maps/@45.4411398,12.3226707,19.7z
リアルト橋	https://www.google.co.jp/maps/@45.4380541,12.3357924,19.43z
アッカデーミア橋	https://www.google.co.jp/maps/@45.4317605,12.3289624,19.43z
サン・マルコ広場	https://www.google.co.jp/maps/@45.4338468,12.3387617,17.54z
サン・マルコ寺院	https://www.google.co.jp/maps/@45.4345416,12.3396694,19.37z
ムーア人の時計塔	https://www.google.co.jp/maps/@45.4348215,12.3389594,19.65z
ため息橋	https://www.google.co.jp/maps/@45.434126,12.3408728,19.04z
カ・ドーロ	https://www.google.co.jp/maps/@45.4408691,12.3337178,18.51z
リド島	https://www.google.co.jp/maps/@45.3845243,12.3498281,12.2z
ダイヤモンドヘッド	https://www.google.co.jp/maps/@21.2632624,-157.8114759,15.32z

上の URL は、下の「PDF はこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

(2022.06.01)